

# 1 「化粧品びんのリサイクル」について、アンケートの結果報告

ガラスびんリサイクル促進協議会 集計

## 【アンケート概要】

「化粧品びんリサイクル」の取組みによる自治体ガラスびん資源回収方法のアンケートも4年目になり、従来からの質問事項のほかに、金属キャップの自治体による住民への排出指導に関する質問項目を加えて、全国の全ての市町村に対して、アンケートを送付した。（昨年の質問項目とした、「自治体でのリターナブルびん採取」の項目は除いた。）

送付直後に東日本大震災が発生し、南九州での新燃岳噴火とあわせての天災発生に影響されたこともあり、アンケートの回収数は前年を下回る結果となったが、「化粧品びんの資源回収」の進捗と各自治体での金属キャップへの排出指導のデータが得られ、従来からのデータ継続に加えて、新たな資料として蓄積できた。

## ■アンケート実施市町村数と回答数（各回答は複数回答や未記載があり、回答自治体数とは必ずしも一致しない）

	H20年度	H21年度		H22年度		H23年度	
実施期間	2.17-4.30	2.17-4.13		3.5-4.20		3.2-4.20	
			前年差		前年差		前年差
対象市町村数(東京都23区含む)	1,818	1,810	▲8	1,796	▲36	1,750	▲46
回収数	1,206	1,347	141	1,252	▲95	1,168	▲85
回収率	66.3%	74.4%	8.4%	69.7%	▲4.8%	66.7%	▲3.9%

※ 昨年度は東京23区は1市として「対象市町村数」を記載したが、今年度は21年度記載に合わせ、23区を独立市町村扱いとし修正した。

## 1. 「化粧品びんの資源回収」について

### 1-1. 【化粧品びんの資源回収】についての設問】

2項目を昨年に引き続き質問した。第1の質問は、平成23年3月時点で、化粧品びんの資源回収を行っているか、それとも「不燃物」ないし「その他の方法」で排出を指導しているか。

第2の質問は、現在、化粧品びんを「不燃物」で排出している自治体で、今後の資源回収化の時期を尋ねた設問で、新年度である平成23年4月実施、あるいは実施予定ないし時期検討中か、そのとも現行の「不燃物回収」を継続するかである。

### 1-2. 【化粧品びんの資源回収】についての自治体回答について】

化粧品びんの資源回収であるが、前2回の調査結果に比較して、資源回収化実施数の伸びは鈍化傾向となった。単に、今年4月からの実施と回答の自治体数だけでなく、実施検討中と回答した自治体数も2年連続で低下した。

化粧品びんの資源回収へのアプローチが容易であった自治体が、回収に踏み切り、課題を抱えた自治体の比率が増加し、回収検討の自治体数の鈍化につながったと思われる。また、資源物を含む多くの不燃廃棄物を埋立処理している自治体では、敢えて化粧品びんの資源回収へ踏み切る動機も弱いと思われる。

同時に、乳白色びん、中身が最後まで使いきれない、油性の中身などの制約の資源回収化への制約事項と思われる。

### 1-3. 【化粧品びん資源回収のまとめ】

- 平成23年度の資源としての収集自治体は451を数え、平成20年度に比べ3年間で125%の増加となる。
- 平成22年4月から取組自治体(36)の中から、平成23年度までに取組みを開始したと思われる自治体が25ある。
- 今回調査では「時期未定だが取組みを検討する」自治体は昨年より減少した。
- 東京23区では「資源として回収」の昨年度の実施の「3」区より今回は「8」区へ+5の増加となった。
- 平成23年4月2日現在、【A】既実施+【B】本年4月から実施+【C】時期未定だが実施予定=500となり回数総数の42.5%(前年差:1.2%増)となる。

表1-1 現在の化粧品びんの扱いについて

	H20年度	H21年度		H22年度		H23年度	
			前年差		前年差		前年差
①資源として収集	202	355	153	424	69	451	27
②不燃ごみで収集	956	943	▲13	790	▲153	679	▲111
③その他	48	49	1	38	▲11	45	7
計	1,206	1,347	141	1,252	▲95	1,175	▲77

※ この設問への未回答及び複数回答の自治体があり、合計数は回答数と一致しない。

表1-2 化粧品びんリサイクル(資源)への取組状況

	H20年度	H21年度		H22年度		H23年度	
			前年差		前年差		前年差
【A】既に実施している	202	355	153	424	69	451	27
【B】本年4月から実施する	74	76	2	36	▲40	16	▲20
【C】時期未定だが実施予定	122	98	▲24	57	▲41	33	▲24
計	398	529	131	517	▲13	500	▲17
回収数に対する割合		39.3%		41.3%	2.0%	42.6%	1.3%

(3)アンケート発送費用 …… 83,738円 (※往復葉書代:1,750枚×@100=178,500円は促進協負担)  
化粧品工業会負担(42,000円)の了承を得ている。

## 2 化粧品びん排出方法と今後の資源化回収の予定 人口規模別

平成23年3月調査

## ※ 化粧品びん人口区分別の排出方法について

1. 人口50万人以上の「市」を除くと、傾向的には人口の少ない自治体の実施率が高くなっている。資源回収の実施に対する住民への広報・啓発が、人口が少ないほど容易で浸透しやすいために実施されたと推定される。

東京都区と市数 (人口:万人以下切捨)				現在の化粧品びんの排出方法				現行不燃ごみ収集			
区分	人口 (千人)	都市数	アンケート 回収数 【R】	資源として 回収 【A】	不燃ごみ として 回収	その他	人口別 資源化回収 実施率 【A】/【R】	今年4月から 資源に含め る予定 【B】	資源に含め る予定で 検討中 【C】	今まで同様、 不燃ごみ として 収集	実施済みと 予定・検討中 を含めた比率 ((【A】+【B】+ 【C】)/【R】)
100万人以上	19,886	11	9	2	4	3	22.2%	2	1	4	55.6%
50万人以上	11,642	17	12	6	6	0	50.0%	1	0	5	58.3%
30万人以上	16,688	43	35	12	21	2	34.3%	1	4	18	48.6%
20万人以上	9,771	39	34	10	23	1	29.4%	0	0	23	29.4%
10万人以上	21,840	157	125	51	73	2	40.8%	1	6	67	46.4%
計	79,827	267	215	81	127	8	37.7%	5	11	117	45.1%
東京都区23区の計	8,949	23	19	8	11	0	42.1%	0	0	11	42.1%
中計	88,776	290	234	89	138	8	38.0%	5	11	128	44.9%
市10万人未満	27,378	519	366	124	225	22	33.9%	5	11	206	38.3%
町村全て	11,902	941	568	238	316	15	41.9%	6	11	303	44.9%
総計	128,056	1,750	1,168	451	679	45	38.6%	16	33	637	42.8%
10万人以上の回答率			80.7%								
全自治体の回答率			66.7%								
10万人以上 化粧品排出方法				37.9%	58.7%	3.4%					
全自治体 化粧品びん排出方法				38.4%	57.8%	3.8%					
化粧品びん資源回収化検討								2.3%	4.8%	92.9%	←不燃ごみ・その他で回答自治体中の検討自治体比率

注1～化粧品びんの現行不燃ごみで収集の自治体の「今後の計画の質問項目に未記載の自治体分は、内容確認の方法が無いため、未記載で集計した。

注2～一部の自治体では、現行の排出を「その他」と回答した自治体でも、「資源物回収」への移行検討と記載した自治体もある。このため、上記の集計が回答数と異なる。

注3～重複(複数)回答があり、合計数値が合わない箇所がある。

## 3 人口規模別 化粧品びんの「資源物」としての排出自治体数 対前年比較

平成23年3月調査

ガラスびんリサイクル促進協議会

※ 化粧品びん人口区分別の前年比較

1. 人口10万人以上20万人未満の「市」での実施が増加した。
2. 30万人以上の市で、昨年度に化粧品びんの「資源として回収」と回答のあった自治体が減少しているが、今年度は回答数が低い影響もあり、前年比で▲3となっている。
3. 全般の実施状況では、人口の少ない自治体での実施率が比較的高いが増加数は鈍化しており、実施への制約が少なかった自治体は資源回収の実施が一巡したとも思われ、検討中と回答の自治体も町村では11に留まっている。(次資料参照)

東京都区と市(人口別)及び町村回答数 (人口:千人以下四捨五入)							現在の化粧品びんの排出方法					
人口区分	H22年10月	H22年03月		H23年03月		回答差異	資源として回収			不燃ごみ・その他として回収		
区分	人口(千人)	都市数	H22.03回収数	都市数	H23.03回収数		H22.03回収数	H23.03回収数	増減	H22.03回収数	H23.03回収数	増減
100万人以上	19,886	11	9	11	9	0	1	2	1	8	7	▲ 1
50万人以上	11,642	15	13	17	13	0	3	6	3	10	6	▲ 4
30万人以上	16,688	46	43	43	35	▲ 8	15	12	▲ 3	28	23	▲ 5
20万人以上	9,771	38	31	39	34	3	7	10	3	24	24	0
10万人以上	21,840	152	121	157	126	5	40	51	11	81	75	▲ 6
小計	79,827	262	217	267	217	0	66	81	15	151	135	▲ 16
東京都区23区の計	8,949	23	18	23	19	1	3	8	5	15	11	▲ 4
人口10万人以上計	88,776	285	235	290	236	1	69	89	20	166	146	▲ 20
その他市町村	39,280	1,511	1,017	1,460	932	▲ 85	355	362	7	662	578	▲ 84
総計	128,056	1,796	1,252	1,750	1,168	▲ 84	424	451	27	828	724	▲ 104

注1～平成23年の化粧品びんを「不燃ごみ」・「その他」で回収の自治体は、東京都区23区以外の市町村で大幅に減少しているが、回答数自体が85自治体も減少しており、全体で100自治体も減少したとは言えない。

注2～化粧品びん資源化回収での実施関係の平成23年度の複数回答市町村 6市(富田林、泉南、伊達、日進、近江八幡、海津の各市)

## 4 化粧品びん 資源化排出・回収 地域別 実施状況

平成23年3月調査

ガラスびんリサイクル促進協議会

## ※ 化粧品びんの排出方法の地域・都道府県別の実施状況

1. 化粧品びんの資源回収化はびんの単独回収と同様に、中部地方が一步進んでいる。
2. 中国・四国地方の資源化回収が20%台後半で低く、多少の差異はあるものの、東北・関東・近畿・九州の各地域はほぼ同様な実施率である。

中国・四国地方の低数値は実施市町村「0」の鳥取県の影響もあると思われる

地域名	市町村数 【T】	回収数 【R】	回収率	化粧品びん排出・回収状況				資源化としての回収化検討			
				資源とし 回収	不燃物 回収	その他 回収	回収率	平成23年 4月開始	資源化 回収 検討中	資源化 予定なし	資源化 回収 (実施+ 検討)率
				【A】	【B】	【C】	$\frac{【A】}{【R】}$	【D】	【E】	【F】	$\frac{【A】+【D】}{【E】+【R】}$
1 全国	1750	1168	66.7%	451	679	45	38.6%	16	33	637	42.8%
2											
3 北海道・東北	407	267	65.6%	105	153	10	39.3%	6	7	140	44.2%
4 関東	319	208	65.2%	72	128	9	34.6%	3	14	118	42.8%
5 中部 (含む甲信越)	348	265	76.1%	129	132	5	48.7%	3	5	121	51.7%
6 近畿	198	127	64.1%	47	70	13	37.0%	1	4	69	40.9%
7 中国・四国	204	132	64.7%	37	90	5	28.0%	1	1	88	29.5%
8 九州	274	169	61.7%	61	106	2	36.1%	2	2	101	38.5%

## 5 化粧品びん 資源化排出・回収 都道府県別 実施状況

平成23年3月調査

ガラスびんリサイクル促進協議会

都道府県名	市町村数 【T】	回収数 【R】	回収率	化粧品びん排出・回収状況				資源化としての回収化検討				
				資源とし 回収	不燃物 回収	その他 回収	回収率	平成23年 4月開始	資源化 回収 検討中	資源化 予定なし	資源化 回収 (実施+ 検討)率	
				【A】	【B】	【C】	【A】÷ 【R】	【D】	【E】	【F】	(【A】+【D】+ 【E】)/【R】	
1	北海道	179	121	67.6%	55	64	2	45.5%	2	4	60	50.4%
2	青森	40	32	80.0%	6	24	2	18.8%	0	0	24	18.8%
3	岩手	34	22	64.7%	4	17	1	18.2%	0	0	17	18.2%
4	宮城	35	16	45.7%	6	8	2	37.5%	3	2	2	68.8%
5	秋田	25	14	56.0%	3	9	2	21.4%	0	0	9	21.4%
6	山形	35	23	65.7%	17	6	0	73.9%	0	0	6	73.9%
7	福島	59	39	66.1%	14	25	1	35.9%	1	1	22	41.0%
8	茨城	44	22	50.0%	5	16	1	22.7%	0	1	15	27.3%
9	栃木	27	18	66.7%	6	11	1	33.3%	0	4	8	55.6%
10	群馬	35	26	74.3%	10	14	2	38.5%	1	0	15	42.3%
11	埼玉	64	39	60.9%	16	22	1	41.0%	0	1	20	43.6%
12	千葉	54	39	72.2%	9	28	3	23.1%	1	2	26	30.8%
13	東京	62	42	67.7%	16	26	0	38.1%	1	2	23	45.2%
14	神奈川	33	22	66.7%	10	11	1	45.5%	0	1	11	50.0%
15	新潟	30	20	66.7%	14	5	1	70.0%	1	0	4	75.0%
16	富山	15	11	73.3%	3	8	0	27.3%	0	1	7	36.4%
17	石川	19	15	78.9%	3	12	0	20.0%	0	0	12	20.0%
18	福井	17	14	82.4%	4	10	0	28.6%	0	0	10	28.6%
19	山梨	27	17	63.0%	5	12	0	29.4%	0	1	11	35.3%
20	長野	77	54	70.1%	34	20	0	63.0%	0	0	20	63.0%
21	岐阜	42	32	76.2%	16	16	1	50.0%	1	1	14	56.3%
22	静岡	35	32	91.4%	10	21	1	31.3%	0	2	20	37.5%
23	愛知	57	46	80.7%	28	17	2	60.9%	1	1	14	65.2%
24	三重	29	24	82.8%	12	11	1	50.0%	0	2	9	58.3%
25	滋賀	19	13	68.4%	4	9	1	30.8%	0	0	8	30.8%
26	京都	26	15	57.7%	5	10	0	33.3%	1	0	9	40.0%
27	大阪	43	25	58.1%	13	11	3	52.0%	0	1	13	56.0%
28	兵庫	41	29	70.7%	6	18	5	20.7%	0	1	17	24.1%
29	奈良	39	26	66.7%	13	10	3	50.0%	0	2	9	57.7%
30	和歌山	30	19	63.3%	6	12	1	31.6%	0	0	13	31.6%
31	鳥取	19	13	68.4%	0	13	0	0.0%	0	0	13	0.0%
32	島根	21	10	47.6%	2	8	0	20.0%	0	0	8	20.0%
33	岡山	27	20	74.1%	5	15	0	25.0%	0	0	15	25.0%
34	広島	23	13	56.5%	2	11	0	15.4%	1	0	10	23.1%
35	山口	19	15	78.9%	10	5	0	66.7%	0	0	5	66.7%
36	徳島	24	14	58.3%	4	10	0	28.6%	0	0	10	28.6%
37	香川	17	13	76.5%	5	8	0	38.5%	0	0	8	38.5%
38	愛媛	20	14	70.0%	5	8	1	35.7%	0	0	8	35.7%
39	高知	34	20	58.8%	4	12	4	20.0%	0	1	11	25.0%
40	福岡	60	39	65.0%	14	24	1	35.9%	0	0	24	35.9%
41	佐賀	20	13	65.0%	6	7	0	46.2%	0	0	7	46.2%
42	長崎	21	18	85.7%	10	8	0	55.6%	0	1	7	61.1%
43	熊本	45	28	62.2%	6	22	0	21.4%	2	1	19	32.1%
44	大分	18	10	55.6%	2	8	0	20.0%	0	0	8	20.0%
45	宮崎	26	17	65.4%	3	14	0	17.6%	0	0	14	17.6%
46	鹿児島	43	26	60.5%	10	15	1	38.5%	0	0	14	38.5%
47	沖縄	41	18	43.9%	10	8	0	55.6%	0	0	8	55.6%
計		1750	1168	66.7%	451	679	45	38.6%	16	33	637	42.8%

平成23年3月調査

## 6 平成23年4月より化粧品びんの資源化回収に着手と回答した全自治体名

(人口順)

ガラスびんリサイクル促進協議会

1. 今年4月実施予定の回答自治体は16、内人口10万人以上の市が5市である。

2. 実施された場合、総人口は4,151千人で、総人口の3.2%を占める。

	区名称	都道府県	自治体種類	平成22年(2010)人口	化粧品びんの資源回収開始時期	注記事項2～現在のびん排出・回収形態
1	京都市	京都	市	1,474,473	平成23年4月	混合収集 びん・缶・PET
2	広島市	広島	市	1,174,209	平成23年4月	混合収集 びん・缶・金属類
3	船橋市	千葉	市	609,081	平成23年4月	単独収集
4	豊田市	愛知	市	421,552	平成23年4月	単独収集
5	青梅市	東京	市	139,232	平成23年4月	混合収集 びん・PET
6	白河市	福島	市	64,710	平成23年4月	単独収集
7	合志市	熊本	市	55,005	平成23年4月	混合収集 びん・缶
8	小千谷市	新潟	市	38,616	平成23年4月	混合収集 びん・缶
9	白石市	宮城	市	37,425	平成23年4月	単独収集かつ色別
10	角田市	宮城	市	31,336	平成23年4月	単独収集かつ色別
11	菊陽町	熊本	町	37,741	平成23年4月	混合収集 びん・缶
12	笠松町	岐阜	町	22,814	平成23年4月	単独収集かつ色別
13	板倉町	群馬	町	15,710	平成23年4月	単独収集
14	上富良野町	北海道	町	11,543	平成23年4月	単独収集
15	川崎町	宮城	町	9,982	平成23年4月	単独収集かつ色別
16	池田町	北海道	町	7,529	平成23年4月	単独収集

平成23年3月調査

## 7 化粧品びんの資源化回収化を「検討中」と回答した全自治体名及び開始目標時期

(人口順)

ガラスびんリサイクル促進協議会

- 今年7月実施予定との回答自治体が3、来年4月実施予定が7、それ以外の開始時期が3、の合計13市町村。
- 検討中と回答も、時期未定や未回答の自治体が20市町村、で検討中自治体の60%を占めている。
- 実施された場合の住民数は4,457千人で総人口の3.4%を占める。

	区名称	都道府県	自治体種類	平成22年(2010)人口	化粧品びんの資源回収開始時期	注記事項～現在のびん排出・回収形態
1	仙台市	宮城	市	1,045,903	時期未定	混合収集 びん・缶・PET
2	市川市	千葉	市	474,926	時期未定	単独収集
3	富山市	富山	市	421,890	平成24(2012)年 4月	単独収集かつ色別
4	高知市	高知	市	343,416	時期未記載	単独収集かつ色別
5	四日市市	三重	市	307,807	時期未記載	単独収集
6	甲府市	山梨	市	198,838	平成24(2012)年 4月	単独収集
7	小田原市	神奈川	市	198,373	平成24(2012)年 4月	単独収集
8	八千代市	千葉	市	189,789	時期未定	単独収集
9	立川市	東京	市	179,503	時期未記載	単独収集かつ色別
10	土浦市	茨城	市	143,023	時期未定	単独収集かつ色別
11	栃木市	栃木	市	139,268	時期未定	混合収集 びん・缶
12	千歳市	北海道	市	93,630	時期未定	混合収集 びん・缶・PET・その他
13	真岡市	栃木	市	82,279	平成26(2014)年 4月	単独収集かつ色別
14	伊東市	静岡	市	71,439	時期未定	単独収集かつ色別
15	天理市	奈良	市	69,125	時期未定	混合収集 びん・缶
16	菊池市	熊本	市	50,213	平成24(2012)年 4月	単独収集かつ色別
17	菊川市	静岡	市	47,035	平成23(2012)年 7月	単独収集かつ色別
18	いなべ市	三重	市	45,675	時期未記載	単独収集かつ色別
19	さくら市	栃木	市	44,774	時期未記載	単独収集
20	滝川市	北海道	市	43,179	時期未定	単独収集
21	海津市	岐阜	市	37,949	時期未定	単独収集かつ色別
22	彦根市	長崎	市	29,373	平成24(2012)年 4月	単独収集かつ色別
23	幸田町	愛知	町	37,933	平成24(2012)年 4月	単独収集
24	広陵町	奈良	町	33,055	時期未定	単独収集かつ色別
25	松伏町	埼玉	町	31,160	時期未定	単独収集
26	野木町	栃木	町	25,712	平成31(2012)年 4月	混合収集 びん・缶・PET
27	美幌町	北海道	町	21,581	時期未記載	単独収集
28	佐用町	兵庫	町	19,273	平成25(2013)年 4月	不燃物・資源物の混合収集
29	厚岸町	北海道	町	10,631	時期未定	単独収集
30	泉崎村	福島	村	6,803	平成23(2012)年 7月	単独収集
31	千早赤阪村	大阪	村	6,015	平成23(2012)年 7月	混合収集 びん・缶
32	大衡村	宮城	村	5,334	時期未記載	単独収集かつ色別
33	神津島村	東京	村	1,882	平成24(2012)年 4月	単独収集